

情報連絡員総括表（2026年2月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI値 = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ±0.0 (=横ばい) で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 （回答者数 58 名：回収率 96.7%）

○2026年2月のDI値は、前月比で「在庫数量」「販売価格」「雇用人員」の3指標が改善した一方で、その他6指標は悪化した。「収益状況」は、コスト高の継続や外部環境の不安定化といった要因が重なり、製造業・非製造業問わず10ポイント以上悪化している。

○「製造業」では、前月比で「在庫数量」「雇用人員」の2指標が改善し、その他6指標が悪化し、1指標は横ばいであった。

「水産食料品」では、製品相場下落により組合全体の収益に大きな影響が生じているほか、「生産用機械器具」では、オペレーター不足に伴う残業増加が収益の低下につながっている。「印刷・同関連」では、外注先の廃業や支店統合の動きにより取引環境が変化しており、安定受注の確保が課題となっている。

○「非製造業」では、「在庫数量」「販売価格」の2指標が改善し、その他6指標が悪化した。特に「販売価格」は前月比で11.2ポイント上昇し改善したものの、前月は29.0ポイントの大幅な下落を示すなど、価格動向は不安定な状況が続いている。

「鮮魚」では、物価高による節約志向で買上点数が伸び悩み、収益環境は厳しい。「セメント」では、官需の落ち込みや建設現場の人手不足など複合的要因により販売減少が続いている。また、「燃料」では、中東情勢の緊迫化を背景に原油価格が上昇しており、これに伴う石油製品価格の上昇が幅広い産業へ影響を及ぼすことが懸念されている。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2026年2月	-32.8	-14.3	20.7	-19.0	-48.2	-31.0	-43.3	-17.3	-44.8
2026年1月	-23.8	-6.8	16.9	-15.2	-28.8	-23.7	-26.7	-18.6	-33.9
増減	-9.0 ↓	-7.5 ↑	3.8 ↑	-3.8 ↓	-19.4 ↓	-7.3 ↓	-16.6 ↓	1.3 ↑	-10.9 ↓

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減	
売上高	2026年2月	-33.3	0.0	ポイント	-	-32.1	-18.3	ポイント	↘	-32.8	-9.0	ポイント	↘
	2026年1月	-33.3				-13.8				-23.8			
在庫数量	2026年2月	-13.4	-6.7	ポイント	↗	-16.7	-9.6	ポイント	↗	-14.3	-7.5	ポイント	↗
	2026年1月	-6.7				-7.1				-6.8			
販売価格	2026年2月	16.7	-3.3	ポイント	↘	25.0	11.2	ポイント	↗	20.7	3.8	ポイント	↗
	2026年1月	20.0				13.8				16.9			
取引条件	2026年2月	-26.7	-3.4	ポイント	↘	-10.7	-3.8	ポイント	↘	-19.0	-3.8	ポイント	↘
	2026年1月	-23.3				-6.9				-15.2			
収益状況	2026年2月	-50.0	-16.7	ポイント	↘	-46.5	-22.3	ポイント	↘	-48.2	-19.4	ポイント	↘
	2026年1月	-33.3				-24.2				-28.8			
資金繰り	2026年2月	-30.0	-6.6	ポイント	↘	-32.1	-8.0	ポイント	↘	-31.0	-7.3	ポイント	↘
	2026年1月	-23.4				-24.1				-23.7			
設備操業度	2026年2月	-43.3	-16.6	ポイント	↘	/				-43.3	-16.6	ポイント	↘
	2026年1月	-26.7								-26.7			
雇用人員	2026年2月	-20.0	6.7	ポイント	↗	-14.3	-3.9	ポイント	↘	-17.3	1.3	ポイント	↗
	2026年1月	-26.7				-10.4				-18.6			
業界の景況	2026年2月	-43.3	-6.6	ポイント	↘	-46.4	-15.4	ポイント	↘	-44.8	-10.9	ポイント	↘
	2026年1月	-36.7				-31.0				-33.9			

今月の業種別回答件数

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況	
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化
製造業	食料品	0	2	0	2	2	1	0	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1
	繊維工業	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	木材・木製品	0	4	0	1	0	2	0	2	0	5	0	1	0	4	0	2	0	3
	紙・紙加工品	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1
	印刷	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	窯業・土石製品	0	3	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	2
	鉄鋼・金属工業	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	2	0	3	0	0	0	2
	一般機器	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	1	0	1
	電気機器	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0
	輸送用機器	2	2	0	0	0	0	1	1	1	2	0	1	1	2	0	1	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非製造業	卸売業	0	3	0	2	2	0	1	1	0	3	0	2	/		0	1	0	3
	小売業	0	3	0	0	2	0	0	1	0	4	0	2			0	0	0	4
	商店街	0	2	0	0	1	1	0	0	0	3	0	2			0	1	0	1
	サービス業	1	2	/		3	1	0	1	1	1	0	0			1	1	0	1
	建設業	1	3			1	1	0	0	0	2	0	2			0	2	0	2
運輸業	2	0	/		1	0	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	1		

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	昨年と比較し販売価格が低下。相場に左右されるので致し方ない事ではあるが、組合の主力事業なので組合全体の損益に大きく影響が出てしまう。春頃から製品相場が再び上がる見込みだが、現時点で油断は出来ない。
パン	販売面で直近の市況に大きな変化は無いが、経営環境としては人件費高騰や人材不足、また設備投老朽化などで課題がある状況。
織物業	生産総量は大きな変化なく、稼働率は8割強で推移。本年度の受注は確保できている。
製材業、木製品	建築資材および人件費の値上がりや金利上昇など住宅建築市況には逆風が吹いている。また見かける建築現場はほとんどが大手のハウスメーカーで、中小零細の製材工場には恩恵がない。今やハウスメーカーが扱うのは接着剤を用いた集成材。木材需要のトレンドを無垢の木材に向かわせなければ、この国の林業は先細る一方かと感じる。
印刷・同関連	3月までは順調だが、4月以降に関しては見えない部分が多い。ベースとなる安定受注に注力が必要。例年に比べ、設備の稼働率が悪かった。用紙値上げの影響があると思われる。顧客や仕入先などでは支店統合の流れが出ている。静岡県は関東と中部のどちらに属すのか業界によって違いがあり、東西に長いために拠点が置かれられない可能性がある。外注先の廃業なども多く聞く。仕入れ、外注先の選定に難儀することがある。
骨材・石工品等	先月同様、売上高が前年同月より減少し、収益状況も悪化しており、在庫も増加している。
金属製品	自動車関連の受注が減少している。
生産用機械器具	オペレーター不足に伴う納期遅延を防止するため残業時間が増加しており、その影響により収益の低下が生じている。
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月の民生用電気機器の国内出荷実績金額は5ヵ月連続のプラスとなった。ルームエアコンは5ヵ月連続のプラス、電気冷蔵庫は4ヵ月連続のマイナスであり、1月単月のルームエアコンの出荷金額は過去最高だった。 ・ 2月の生産は、電気冷蔵庫は大型機種の販売不振が続きマイナス、家庭用エアコンは国内販売が好調によりプラス、業務用エアコンは輸出の海外シフトによりマイナスとなった。26年度の省エネ規制強化による駆け込み需要と海外シフトの影響を注視していく。
輸送用機械器具	トランプ関税が紆余曲折している現状で、中小企業は直接の影響はないが不安だけはある。

非製造業

セメント	1月のセメント国内販売は前年同月比▲5.4%で41カ月連続のマイナス。単月ベースではリーマンショックや姉齒問題、民主党への政権交代時期の2007年6月から10年10月までの41カ月連続減の過去最長に並んだ。2月は20日現在0.2%減で推移。官需の長期的な落ち込み、慢性的な建設現場の人手不足による工期の長期化や建設コスト高騰に起因する計画の見直し、働き方改革に伴う建設現場の完全週休2日制導入による稼働日の低下等複合的な要因により底打ちが見えない状況。
鮮魚	物価高による消費者の節約志向で、買上げ点数が伸び悩み売上は前年並み。原材料・人件費・金利の上昇は続いており、収益環境は大変厳しい状況であった。
燃料	ホルムズ海峡の事実上の封鎖状態によって、原油の価格が上昇しており、石油製品全油種の小売価格もそれに伴って上昇。短期で収束すれば良いが、長期に渡ればわたるほど価格が上昇し、石油製品を使用するすべての産業に影響を及ぼすため、短期での収束を願うばかり。
商店街	経済対策の動きはあるが、まだ実感としての感じ方は鈍く、なかなか消費に繋がらない。
宿泊業	2月初旬は予約状況が芳しくなく、料金を下げるなどして集客に努めた。後半に入って、3連休や市が実施する宿泊キャンペーンのクーポン配布などの効果があった。 毎年開催される祭りの期間は多くのインバウンドの宿泊予約があるが、今年は中国の訪日自粛もあり、昨年と比較して不調であった。2月第1週末の大雪の影響で宿泊キャンセルが発生し、同時に新規の予約も停滞し、売り上げに影響を及ぼす結果となった。
総合工事	2月末まではどの業種も不足気味だが、3月中頃には仕上げ工事業者も空くだろう。現在は新年度工事の見積依頼が多く有るが予算との乖離が有り、3月末までに成約出来るか不透明である。
職別工事	昨年10月ごろから続く着工延期、中止の影響が現在も続いている。夏ごろまでは厳しい状況が続くような模様。
道路貨物運送	2026年4月から「特定荷主」に対し、物流統括責任者（CLO）の選任や中長期計画の策定が義務化される。2月はその体制構築や報告義務への準備が各社で急ピッチに進んでいる。また、人件費や燃料費の高騰により、運賃改定の交渉が継続中。その一方で、法令違反（名義貸し等）への行政処分も厳格に行われており、業界の適正化が進んでいる。特定技能制度を活用した外国人ドライバーの受け入れが本格化し、拠点の幹線輸送などでの活用が模索されている。現在は、法改正を「好機」と捉えたデジタル化や共同配送の効率化が進む一方で、中小事業者を中心に経営の二極化が鮮明となっている。
道路旅客運送	昨年11月の運賃改定により、1月の営業収入は対前年比8%の増加となったものの、コロナ前との比較では12月よりも2ポイント下がっている。コロナ明けの輸送人員の回復状況も足踏み状態となっているため、観光キャンペーンのような大掛かりな旅客需要喚起対策が望まれる。

4. 主要三指標における DI 値の推移

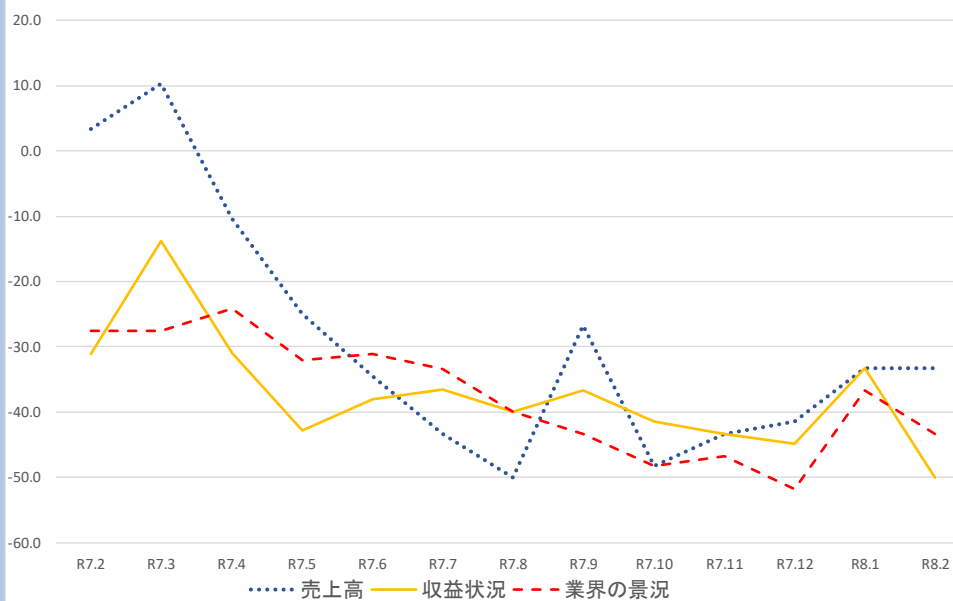
■2025年2月期～2026年2月期までの推移

全体	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2
売上高	3.4	-3.5	-21.1	-23.6	-22.1	-29.4	-26.6	-11.7	-23.8	-28.3	-24.6	-23.8	-32.8
収益状況	-22.4	-17.9	-33.3	-25.5	-25.4	-32.8	-33.3	-25.0	-27.1	-33.3	-42.1	-28.8	-48.2
業界の景況	-34.5	-32.2	-29.8	-29.1	-30.5	-32.8	-33.4	-36.6	-40.7	-41.6	-43.8	-33.9	-44.8

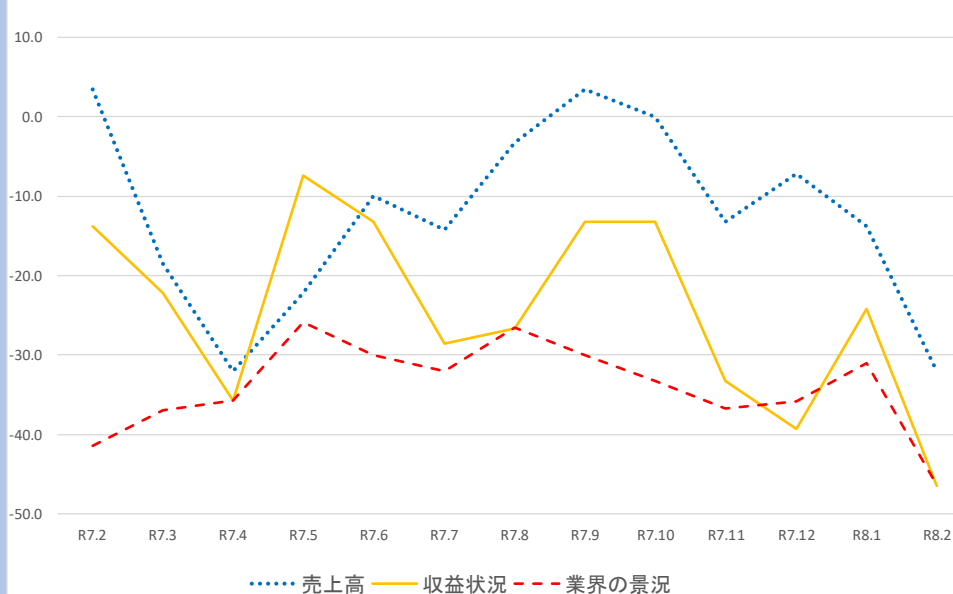
製造業	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2
売上高	3.4	10.3	-10.4	-25.0	-34.5	-43.3	-50.0	-26.7	-48.3	-43.3	-41.4	-33.3	-33.3
収益状況	-31.1	-13.8	-31.0	-42.8	-38.0	-36.6	-40.0	-36.7	-41.4	-43.4	-44.8	-33.3	-50.0
業界の景況	-27.6	-27.6	-24.2	-32.1	-31.1	-33.4	-40.0	-43.3	-48.3	-46.7	-51.8	-36.7	-43.3

非製造業	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2
売上高	3.4	-18.5	-32.1	-22.2	-10.0	-14.3	-3.3	3.4	0.0	-13.3	-7.2	-13.8	-32.1
収益状況	-13.8	-22.2	-35.7	-7.4	-13.3	-28.6	-26.7	-13.3	-13.3	-33.3	-39.3	-24.2	-46.5
業界の景況	-41.4	-37.0	-35.7	-25.9	-30.0	-32.1	-26.6	-30.0	-33.3	-36.7	-35.8	-31.0	-46.4

【製造業 DI 値】



【非製造業 DI 値】

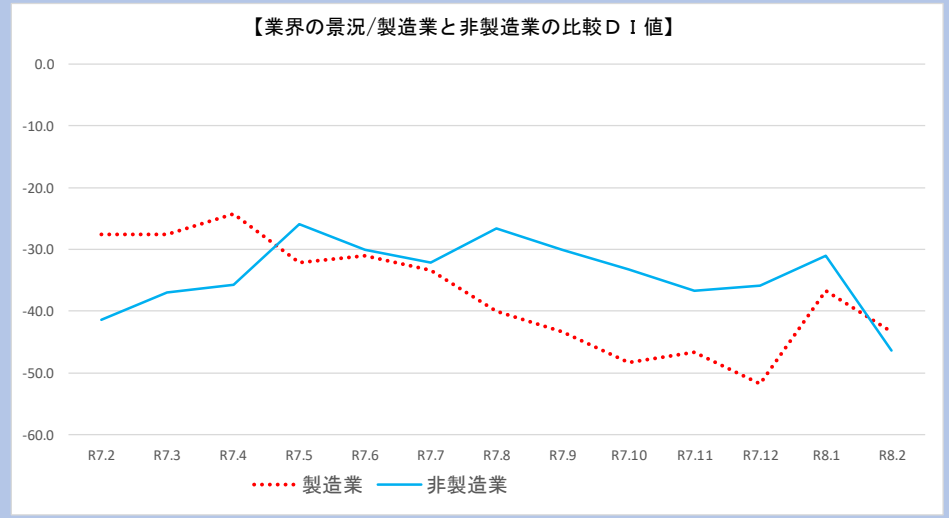
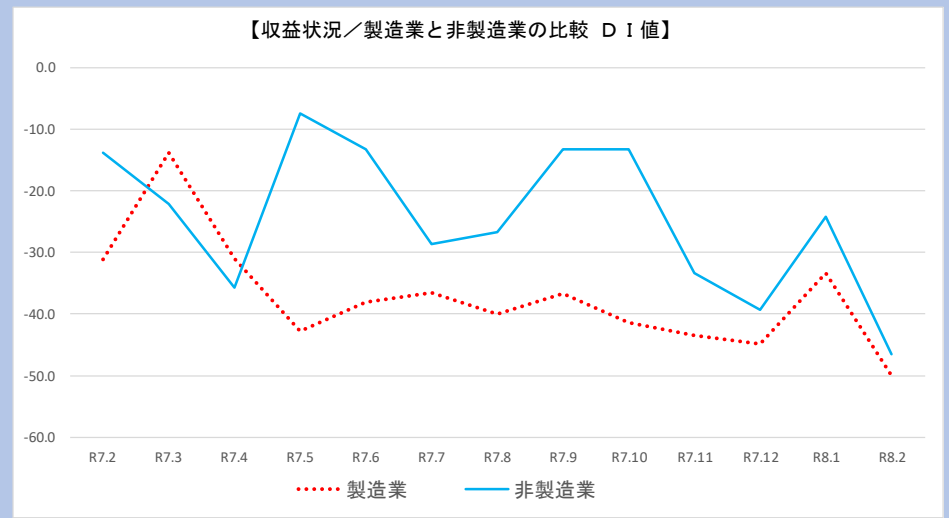
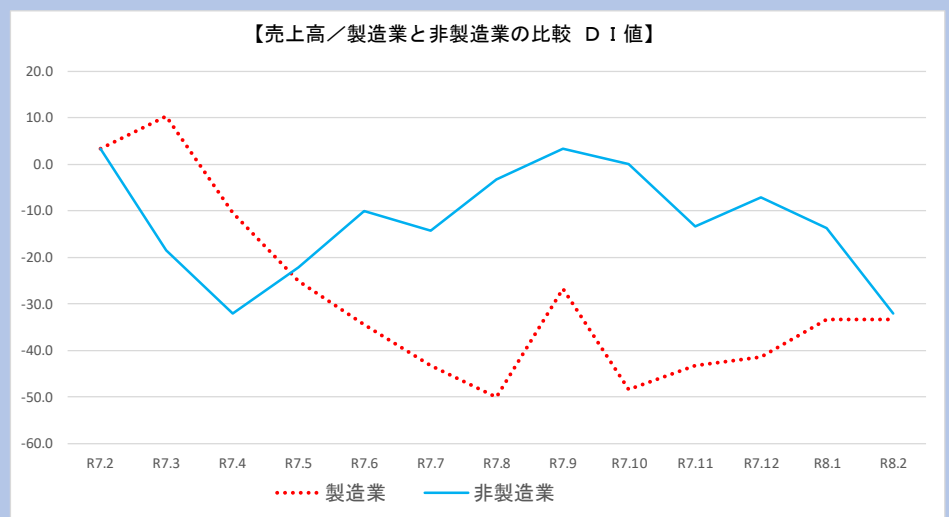


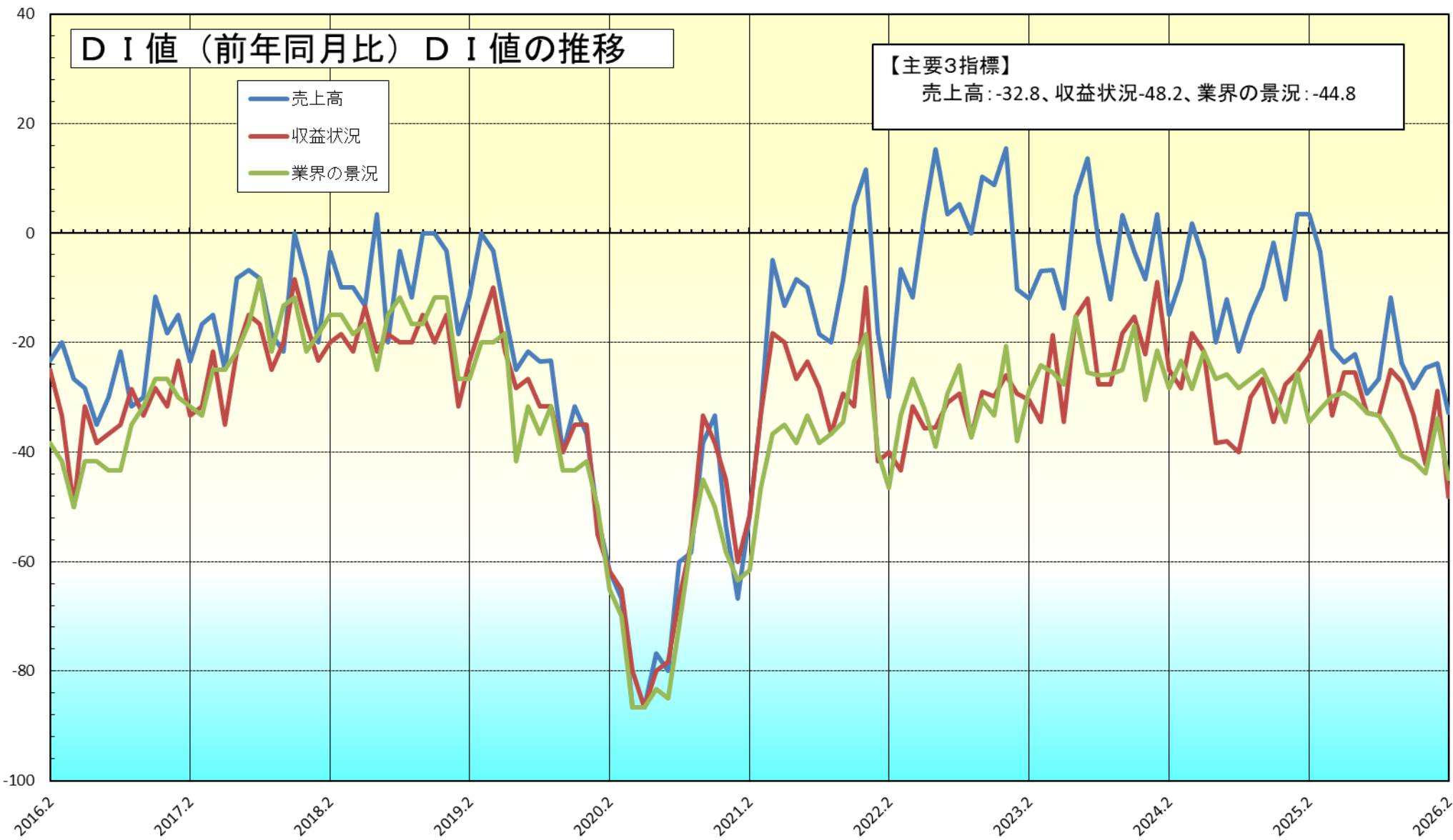
■2025年2月期～2026年2月期までの推移

売上高	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2
製造業	3.4	10.3	-10.4	-25.0	-34.5	-43.3	-50.0	-26.7	-48.3	-43.3	-41.4	-33.3	-33.3
非製造業	3.4	-18.5	-32.1	-22.2	-10.0	-14.3	-3.3	3.4	0.0	-13.3	-7.2	-13.8	-32.1

収益状況	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2
製造業	-31.1	-13.8	-31.0	-42.8	-38.0	-36.6	-40.0	-36.7	-41.4	-43.4	-44.8	-33.3	-50.0
非製造業	-13.8	-22.2	-35.7	-7.4	-13.3	-28.6	-26.7	-13.3	-13.3	-33.3	-39.3	-24.2	-46.5

業界の景況	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2
製造業	-27.6	-27.6	-24.2	-32.1	-31.1	-33.4	-40.0	-43.3	-48.3	-46.7	-51.8	-36.7	-43.3
非製造業	-41.4	-37.0	-35.7	-25.9	-30.0	-32.1	-26.6	-30.0	-33.3	-36.7	-35.8	-31.0	-46.4





このD I 値は県内の地域、業種を代表する組合役職員60名の情報連絡員から寄せられた景況等に関する情報の一部を表したものです。